

第57回 北海道小学校長会教育研究日高大会

閉会式 研究大会大会長 あいさつ

学校経営に懸ける校長としての熱き思いを語り合った、第57回北海道小学校長会教育研究日高大会の幕が、今、静かに下ろされようとしています。

昨日と今日の二日間、これからの学校教育のあるべき姿と、校長としてのリーダーシップの在り方について、真剣に、そして、熱く考え語り合った研究大会でありました。全道よりご参集くださいました会員の皆様の熱心な研究協議、ありがとうございました。



この大会を開催するにあたり、道小では大会実行委員会の協力を得て、発信性のある研究討議ができないかと考え、準備を進めてまいりました。

先ほど、吉崎 隆研修部長から報告がありましたように、子どもたちの未来を支える学校経営と学校改革に立ち向かう校長のリーダーシップの実相を明らかにしようと、13の分科会全てにおいて、これまでの研究大会をしのぐ熱心かつ提案性のある協議が行われ、分科会協議の更なる進化を標榜してきた本大会の初期の目的を十分に果たすことができました。

昨日の分科会において貴重な提言をしてくださいました各地区の校長先生、長い時間をかけ参画型の分科会協議の在り方を模索して下さった司会者・趣旨説明者・運営責任者の校長先生方、本当にありがとうございました。

参加された校長先生お一人お一人の高い意識が、大会をさらに意義深いものにしたことを誇りに思うとともに、成果が全道の各学校に還流していくであろうことに胸が熱くなる思いであります。

大雨による即自的な対応を強いられる中、この2日間の大会を見事に運営し演出して下さった 久保田 達也 大会実行委員長 坂本 直司 実行委員会事務局長をはじめとする44名の日高地区校長会の皆様、本当にお疲れ様でした。緻密できめ細やかな大会運営から、日高地区校長会の結束力と実践力の高さを見せていただいたように感じます。本当に、ありがとうございました。

社会の変化、児童生徒の変化、家庭や地域社会の変化、あるいは新しい教育課程の実施など、学校の抱えている課題が複雑化・多様化している現在においては、校長がどのようにリーダーシップを発揮するかが、学校教育の充実にも学校の将来的方向にも大きく関わっているといっても過言ではありません。

本研究会での協議を振り返り、我々校長に期待されることとして、二つの側面からお話しさせていただきます。

一つ目は、個々の教職員を育てるために行う指導助言の側面であります。

教師として、自信をもって子どもの前に立てるように、また子どもの変容に心から喜びをもてるように、そして、全ての子どもたちにより教育を保障するために、一人一人の教師の指導力の向上や成長を促し、常に自己改革を図るよう育てていく校長の役割を考え、行動することです。

二つ目は、学校の組織的活動をより効果的に展開させることです。

学校では、一人一人の教師が、分業と協働体制で学校の組織的活動が行われています。これまでの組織編成や学校全体の活動を見直し、校長自らが動き、組織としての新たな動きのある学校改善を図っていくことです。全教職員が、学校における分業と協働体制の意義や価値を十分に認識し、一丸となって業務の推進に邁進する中でこそ、学校としての教育力の向上が望めるのです。

ゆえに、校長にはいわゆる「チーム学校、学校丸」の船長として、時代の変化に対応する学校の適切な舵取りと率先垂範するリーダーシップの発揮が求められるのです。校長のリーダーシップには、校長の人間力が鍵となるといわれています。理念と情熱、決断力と行動力を発揮して、「チーム学校」を機能させようではありませんか。

そして、二日間の大会で交流し学び得たものを、各地区・各学校に持ち帰り、是非明日からの学校経営・教育実践に生かし、子どもの姿を通して本大会の成果を表そうではありませんか。

また来年、校長としての研鑽の成果を持ち寄り、十勝大会で再会したいと思います。

参加されました校長先生方の、ますますのご活躍とご健勝をご祈念申し上げるとともに、今一度、久保田実行委員長を始め、日高地区校長会の皆様に、心より感謝の意を表し、閉会式の挨拶といたします。

二日間、本当にありがとうございました。

